

## ホシホウジャク



ホシホウジャク(高速シャッターで翅の模様をとらえた)



ホシホウジャク(長い口物を突き刺して吸蜜)

チョウ(蝶)とガ(蛾)の違いは何ですか?回答者泣かせの問いである。筆者も戸惑う。チョウは昼行性、ガは夜行性、チョウは翅をたたんでとまり、ガは広げてとまるなど一般では言われる。しかし例外のチョウやガはたくさんいる。極論を言えば、チョウもガも「鱗翅目」であり、区別できない。分類学上区別するには「科(family)」で分けることになる。すなわち、セセリチョウ科、アゲハチョウ科、シロチョウ科、シジミチョウ科、シジミタテハ科、タテハチョウ科に属するものをチョウ、その他をガと呼んでいる。

さて、それでは昼に飛翔するガを一頭紹介しよう。熊野古道センター周辺に広がる照葉樹の森の林縁部には紅紫色の花を咲かせるヨシノアザミが

自生している。夏、花の写真を撮影するため観察していると吸蜜している昆虫を見つけた。そっと近づいて観察してみるとスズメガ科ホウジャク亜科に属するホシホウジャク(Macroglossum pyrrhosticta)だった。高速で翅を動かし、止まっているかのように見える。ホバリングしている姿はまるでハチドリのような。長い口物を伸ばしてアザミの花の蜜を吸っている。実はこのガ、昼行性でありながら夜間の灯火にも飛来する。

成虫は初夏から秋にかけて発生。主に花の蜜を吸う。吸蜜時は脚を後ろにたたんでホバリングする。幼虫の食草はアカネ科のヘクソカズラで、漢字で「屁糞草」と表記するつる性の野草だ。葉を揉むと独特なおいがする。たとえたとタマネギの腐っ

たような匂いを放ち、悪臭といってもおかしくない。正体はメタンチオールという物質だ。幼虫はこの葉だけを好んで食べる。

翅を閉じると褐色で枯葉のように見える。木の幹に張り付いているとまったくわからない。一方、翅を広げるとオレンジ色の帯が見え、ホバリングしている姿はハチのようだ。一説にはハチに擬態しているのではないと言われる。つまり名前のホウジャクは「蜂雀」と呼ばれることからつけられたものだ。

自然界をじっくり観察すると気付きがたくさんある。何気なしに見ている身近な自然には様々な生き物たちのドラマがあり営みがある。今回はその1ページを紹介したにすぎない。2ページ目を彩るのは読者自身である。さあ、野山に出かけよう!



長島港

## ひとりごと 川端守の

NO.12

### 愚庵「巡礼日記」を歩く(その4)

明治26年の秋、彼岸の入りの日(9月21日)に京都を出発した天田愚庵は、伊勢の参宮と観光をすまし、28日には田丸を経て原の里に宿る。29日には6里余を歩き野後(滝原)泊。伊勢路に入った愚庵はひたすら歩く。

9月30日、滝原神宮に参拝後、阿曾、崎を経て夕方には荷坂峠を越える。この日も7里余を歩くが、「是より紀州路なり」と記す。峠の下り坂にて雨が降り出し、やや苦勞するが、夕刻になり長島にたどりつく。「宿は磯辺なり」と記すが、宿名は記さない。多分、最近まで営業していた嵐屋旅館であろう。「終夜浪音高く、枕に響きて、夢穩かならず」と寝苦しい夜を過ごしたらしい。

現在西長島の地区は、街全体が10m余の防潮堤に守られて、街中から海辺を望む

ことはできないが、愚庵の泊まった時代、窓からは長島湾が間近に見え、海風が終夜、愚庵の枕元を通り抜けたことであろう。海辺での生活体験のない愚庵にとって潮騒は迷惑だったろう。10月1日、「男共、木本迄汽船に乗れと勤む。心願なれば徒歩により行くと云ふに、強て乗せんとて口々に罵る、順礼の大事ここと忍びて立ち出づ」

近世の道中記にもよく現れる長島の漁師たちの順礼者への船に乗れとの強要が明治26年頃にまでつづいていたことに驚く。愚庵の「順礼の大事」とは、親・妹への思いと千名を越える寄託者たちの願いなので、男共の勧誘に従うわけにはいかなかったのである。

## お知らせ

企画展、イベント情報、センター周辺のちよつとした話題など、随時更新しています。ぜひご覧ください。

三重県立熊野古道センター公式チャンネル

YouTube 動画公開中!

講演会やイベントの動画をアップロードしています。ぜひチャンネル登録をお願いします。

公式Twitter、Instagram 随時配信!

センター敷地内 『夢古道おわせ』

海鮮レストラン イサバヤ

尾鷲を一望できる海鮮レストランで、新鮮な魚介類を使った海鮮丼やステーキなど、漁師直営のお料理をお楽しみいただけます。

営業時間 午前11時～午後2時 (オーダーストップ)

みえ尾鷲海洋深層水 夢古道の湯

深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、湯上り後もポカポカです。

営業時間 午前10時～午後9時30分 (入館受付:午後9時まで)

「夢古道おわせ」に関するお問い合わせは TEL 0597-22-1124

お車でお越しの方は...

尾鷲北IC→坂場交差点を直進→「ホテルビオラ」さんがある交差点を右折→しばらく県道を海沿いに走り、案内看板を右折して到着です。(尾鷲北ICから約10分) ※尾鷲南ICからは約8分

電車でお越しの方は...

JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅前」バス停(徒歩5分) 乗車→「熊野古道センター前」下車

## 熊野古道センターからのてがみ 2023年 夏号

- 発行日:2023年6月10日(季刊)
- 編集・発行:三重県立熊野古道センター (三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当:嶋田
- 連絡先:〒519-3625 三重県尾鷲市向井12-4 TEL 0597-25-2666 FAX 0597-25-2667 Mail info@kumanokodocenter.com
- 開館時間:午前9時～午後5時
- 入場料:無料
- 休館日:12月31日、1月1日(その他メンテナンス時休館)

熊野古道センター 検索

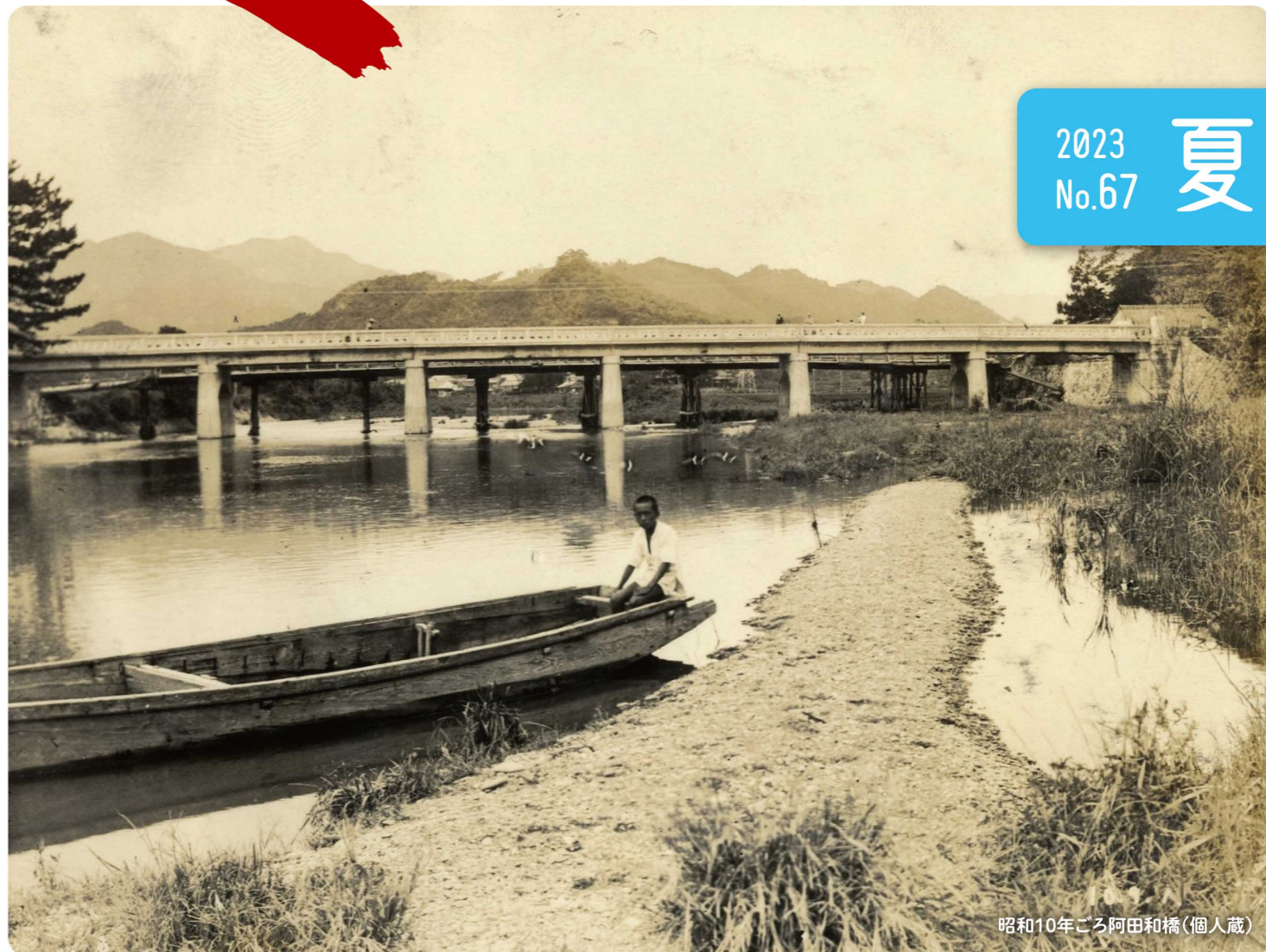
ホームページ <https://kumanokodocenter.com> 60000230610HS



# 三重県立熊野古道センター

The Letter from Mie Prefectural Kumano Kodo Center からのてがみ

2023 夏 No.67



昭和10年ごろ阿田和橋(個人蔵)

## 企画展 御浜町

写真で懐古・故郷の暮らしと風景

会期 2023 7/1(土) ~ 8/20(日)



昭和17年尾呂志 伊勢神宮へ献上米(個人蔵)

御浜町。「年中みかんのとれるまち」、けれど柑橘栽培の歴史は意外と浅く、本格化したのは昭和にはいつからです。朝霧が峠から滝のように流れ落ちる「風伝おろし」は、美しく感動する風景というにとどまらず、格別に美味しいお米を育ててきました。昭和もヒトケタごろには、七里御浜に沿った道は「自動車快速道路として日本一大道路」と謳われた観光地でもありました。尾呂志川・市木川・志原川ではしばしば川尻が塞がり水があふれ、宅地や田畑となったのは昭和以降の場所も多いです。

100年、いえ、50年前、昨日のこのように感じるくらい昔でも、写真を見るとまったく別の世界のようにです。

三重県南牟婁郡御浜町は、昭和33年に阿田和町・神志山村・市木尾呂志村が合併し誕生しました。北部と西部には山地が、熊野灘に面した東側は平坦な低地が広がっています。

本企画展では、個人蔵の写真を中心に展示いたします。記録写真とは違う、素顔の生活の写真、変化に富む町に生きる人々の暮らしをお楽しみいただけたらと思います。

# 旬の企画展

**企画展**  
御浜町 / 写真で懐古・故郷の暮らしと風景  
2023 **7/1** ▶ **8/20** 日 ●会期中無休  
時間 午前9時～午後5時  
入場料 無料  
場所 企画展示室

昭和時代以前に撮影された御浜町の古写真を展示し、人々の暮らしとそれを取り巻く町の景観、未来に伝えていきたい伝統や風物をご紹介します。



昭和8年4月17日神楽奉納記念(個人蔵)

**特別展示室企画展**  
吉田家文書 — 古文書に見る滝原の林業家 —  
2023 **6/17** ▶ **8/6** 日  
●会期中無休  
時間 午前10時～午後5時  
入場料 無料  
場所 特別展示室 吉田家文書 金銭出入帳

大紀町滝原の林業家である吉田家に残る様々な古文書を展示します。



**企画展**

## 伊勢路の石仏と道標

2023 **9/2** ▶ **10/15** 日  
●会期中無休  
時間 午前9時～午後5時  
入場料 無料  
場所 企画展示室



八鬼山 町石

**特別展示室企画展**

## 大台ヶ原の生きものたち

2023 **8/12** ▶ **10/29** 日  
●会期中無休  
時間 午前10時～午後5時  
入場料 無料  
場所 特別展示室

奈良県大台ヶ原地帯に生息する生きものをテーマに、鉛筆、色鉛筆、サインペン等を使って、繊細に描写された作品約37点を紹介します。自然美を繊密に捉えて描かれた作品を通し、かけがえのない自然をより身近に感じていただく機会とします。

清水千佳子  
ネイチャー・アート展Ⅹ



ゴジュウカラ

## ライヴアート

清水さんの制作風景を間近で見学し、作品が完成する過程をお楽しみいただけます。

2023 **8/12** ▶ **10/29** 日 他  
時間 午前10時～正午、午後1時～2時、午後3時～4時  
参加料 無料  
場所 特別展示室前 ロビー

## 日曜わくわくものづくり体験

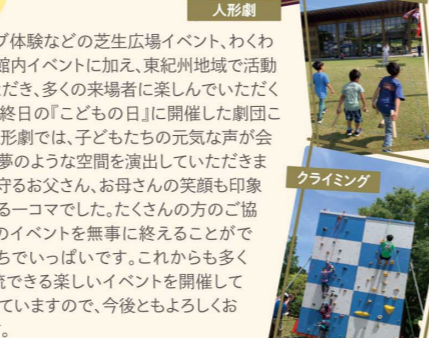
東紀州で活躍中の木工職人や工芸家を講師に、毎週日曜日に開催している体験教室です。講師は週替わり、事前申込不要で、小さなお子様から大人まで気軽に楽しんでいただけます。

詳しくは熊野古道センター ホームページでご確認いただけます。

## ゴールデンウィーク ドリームフェスタ 2023

5月3日～5月5日の3日間、『ゴールデンウィークドリームフェスタ2023』を開催しました。

人気のクライミング体験やクップ体験などの芝生広場イベント、わくわくものづくり体験や人形劇などの館内イベントに加え、東紀州地域で活動するキッチンカーにも出店していただき、多くの来場者楽しんでいただくことができました。特にイベント最終日の『こどもの日』に開催した劇団こがねむしによる人形劇では、子どもたちの元気な声が会場に響きわたり、夢のような空間を演出していただきました。となりで見守るお父さん、お母さんの笑顔も印象的で思い出に残る一コマでした。たくさんの方のご協力により3日間のイベントを無事に終えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも多くの人が交流できる楽しいイベントを開催していきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。



クップ、クライミング

# イベント情報

ご家族で家山子を作ってみませんか? 作った家山子は同地区の棚田に設置します。



2014年開催の様子

## 交流イベント

2023 **7/15** 土 ●少雨実施  
時間 午前9時～午後2時  
参加料 300円(保険料・材料代)  
定員 20組(要申込・先着順)  
対象 小学生のお子さんご家族(※保護者同伴必須)  
場所 交流棟前犬走  
受付 6月10日(土)～7月10日(月)午後5時まで  
協力 農事生産塾「向井の里」・尾鷲市  
●賞品:向井のお米5kg～2kg(新米となりますので、9月中旬頃に取りに来ていただきます)

## 向井かかし作りコンテスト

2023 **7/15** 土 ●少雨実施  
時間 午前9時～午後2時  
参加料 300円(保険料・材料代)  
定員 20組(要申込・先着順)  
対象 小学生のお子さんご家族(※保護者同伴必須)  
場所 交流棟前犬走  
受付 6月10日(土)～7月10日(月)午後5時まで  
協力 農事生産塾「向井の里」・尾鷲市  
●賞品:向井のお米5kg～2kg(新米となりますので、9月中旬頃に取りに来ていただきます)

## 夏休み思い出づくり体験教室

2023 **8/11** 金  
時間 ①午前10時30分～11時30分 ②午後1時30分～2時30分  
参加料 500円  
定員 ①10名②10名 合計20名(要申込・応募多数の場合抽選)  
対象 小学生以上(小学3年生以下は保護者同伴)  
場所 体験学習室  
講師 熊野古道センター職員  
受付 6/28(水)～7/28(金) 午後5時まで

夏休みの思い出にモノづくり体験してみませんか? 今年も銅鏡づくりあります。

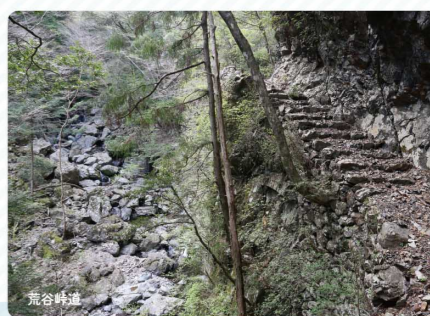
2023 **8/12** 土  
時間 ①午前10時30分～11時30分 ②午後1時30分～2時30分  
参加料 500円  
定員 ①10名②10名 合計20名(要申込・応募多数の場合抽選)  
対象 小学生以上(小学3年生以下は保護者同伴)  
場所 体験学習室  
講師 熊野古道センター職員  
受付 6/28(水)～7/28(金) 午後5時まで

## 先人たちの軌跡

— 上北山村と尾鷲町を繋いだ生活道と鉄索 —

上北山村と尾鷲町の間には、1,000mを超える二つの連山が立ちはだかる。ここには昭和30年頃まで村と町を結ぶ生活道があった。また、明治の末期、この地方で初めて木材等を運搬する鉄索(索道)が敷設された。我々の記憶から消えようとしている今、奥山に刻まれた生活道や鉄索の駅舎跡などに踏み込んだ。先人たちが格闘したであろう数々の軌跡に迫る。

**新熊野学講座**  
2023 **8/5** 土  
時間 午後1時30分～3時30分  
参加料 無料  
定員 100名(要申込・先着順)  
場所 交流棟大ホール(または展示棟映像ホール)  
講師 橋本 博(熊野古道センター副センター長)  
受付 6月20日(火)～8月4日(金) 午後5時まで



荒谷峠道

**ロビー展示**  
2023 **7/8** 土 ▶ **8/27** 日  
時間 午前9時～午後5時  
入場料 無料  
場所 展示棟ロビー

## 熊野古道自然学校 星空観望会

2023 **8/13** 日 ●雨天、曇天の場合中止  
時間 午後7時30分～9時  
参加料 500円(保険料、資料代)  
定員 20名(要申込・先着順)  
対象 小学生以上(小学生は保護者同伴)  
場所 映像ホール、芝生広場  
講師 湯浅祥司氏、松下周司氏、大川勝之氏(尾鷲市立天文科学館天体観測指導員)  
受付 7月12日(水)～8月12日(土) 午後5時まで  
協力 尾鷲市立天文科学館(尾鷲市教育委員会生涯学習課)、尾鷲ロータリークラブ

三大流星群の一つで8月13日に見頃を迎えるペルセウス座流星群と、三つのα星(はくちょう座デネブ、わし座アルタイル、こぞ座ベガ)を結んだ夏の三大角、はくちょう座からさそり座へと続く天の川を観望します。

## 東紀州の四季も味わう料理教室

2023 **9/10** 日 秋の味覚 戻り鯉  
時間 午後1時～3時  
参加料 2,000円  
定員 20名(要申込・応募多数の場合抽選)  
場所 体験学習室  
講師 西岡宏起氏(相可高校食物調理科教師)、相可高校調理クラブの皆さん  
受付 8月3日(木)～9月3日(日) 午後5時まで



賀田駅から甫母峠を越えて二木島町に向かうこのコースは、美しく積み上げられた石畳や旅の途中で力尽きた旅人を供養する巡礼供養碑、江戸城の築城にも使われた石を切り出した石切り場などの貴重な史跡を数多く見ることができ、曾根次郎坂・太郎坂という変わった道の名前は、「自領・他領」が混ったものと言われており、甫母峠が紀伊の国と志摩の国の境目であったことに由来しているそうです。案内人の東公雄さんと歩く曾根次郎坂・太郎坂は新たな発見が沢山あり、とても楽しい時間を過ごすことができました。貴重な史跡や美しい景色など、見所が盛り沢山の曾根次郎坂・太郎坂を、是非皆様も歩いてみてください!

## スタッフコラム

### ゴールデンウィーク ドリームフェスタ 2023

5月3日～5月5日の3日間、『ゴールデンウィークドリームフェスタ2023』を開催しました。

人気のクライミング体験やクップ体験などの芝生広場イベント、わくわくものづくり体験や人形劇などの館内イベントに加え、東紀州地域で活動するキッチンカーにも出店していただき、多くの来場者楽しんでいただくことができました。特にイベント最終日の『こどもの日』に開催した劇団こがねむしによる人形劇では、子どもたちの元気な声が会場に響きわたり、夢のような空間を演出していただきました。となりで見守るお父さん、お母さんの笑顔も印象的で思い出に残る一コマでした。たくさんの方のご協力により3日間のイベントを無事に終えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも多くの人が交流できる楽しいイベントを開催していきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

キッチンカー

**新熊野学講座**  
熊野謎解きめぐり  
熊野の魅力は、大地が大きく関係している!?  
『熊野謎解きめぐり』紀伊半島大荒れ』の著者で和歌山大学客員教授である後誠介氏をお招きし、紀伊半島の様々な地質景観の紹介や見どころ・視点を講演いただき、熊野地域の魅力に迫ります。  
2023 **8/19** 土  
時間 午後1時30分～3時30分  
参加料 無料  
定員 100名(要申込・先着順)  
場所 交流棟大ホール  
講師 後 誠介氏(和歌山大学客員教授)  
受付 7月17日(月・祝)～8月18日(金) 午後5時まで



**連続講座 秋季**  
山歩き講座【初級編】  
第1回 **9/16** 土 午前10時～午後3時  
第2回 **9/17** 日 午前9時～午後1時30分  
参加料 500円(保険料・資料代)  
定員 15名(要申込・応募多数の場合抽選)  
対象 小学3年生以上(小学生は保護者同伴必須)  
場所 第1回 体験学習室 第2回 熊野古道観音道・大吹峠周回(少雨実施)  
講師 宮本秀男(熊野古道センター センター長 日本スポーツ登山会 山岳コーチ)  
受付 8月2日(水)～9月2日(土) 午後5時まで

初心者の方、基礎を見直したい方、スキルアップを目指す方、熊野古道を歩いてみたいけれど不安な方に。実際に熊野古道観音道を踏破して自信をつけましょう。



観音道

## 和歌山県世界遺産センターからのお知らせ

お問合せ先 和歌山県世界遺産センター  
住所 和歌山県田辺市本宮町本宮100-1  
TEL 0735-42-1044  
FAX 0735-42-1560  
E-mail e0624002@pref.wakayama.lg.jp

日差しが強さを増し、夏のさざしを感じる季節になりました。コロナウイルスも2類から5類へ移行され、コロナ前の日常生活に戻ってきたように感じます。特に多くの外国人観光客が熊野古道を歩いている姿を見ると嬉しくなります。当センターでは、世界遺産の保全活動である「道普請」を実施しています。「道普請」とは、管理団体である市町村の文化財担当者等の立会いのもと、企業のCSR活動や、世界遺産の理解と保全の意識を高めるための教育活動等を利用し、傷んだ古道に土を補充したり、側溝や横断溝の清掃をしたりする活動です。今年度もすでに多くの方々に参加していただきました。中でも海外からタイ国政府観光庁御一行様約70名に参加いただいたことは当センターにおいても大きな出来事となりました。(下記参加団体と写真参照)。また、世界遺産を良好な状態で次世代に継承するため、小・中高校生を対象として世界遺産入門講座(座学)と現地学習を組み合わせた「次世代育成事業」も秋に実施する予定となっています。

令和5年3月～5月末までの道普請参加団体(敬称略)  
株式会社伊藤園、タイ国政府観光庁、一般財団法人さわかみ財団、熊野古道を歩く道普請のなかたち、三菱電機株式会社冷熱システム製作所、富士古河E&C株式会社、KDDI株式会社  
道普請には、資材費が別途必要 ●道普請の事情により、延期または中止、日程及び内容を変更する場合があります。  
詳しくはセンターのウェブサイト <https://www.sekaiisan-wakayama.jp> をご覧ください。またご不明な点があれば当センターへお問い合わせください。



道普請の様子